



えっ！75歳以上の 医療費負担が 2倍になるの!?



6月4日、国会で「75歳以上の医療費窓口負担2倍化」などを内容とする健康保険法等の一部改正案が成立しました。法案には、自民、公明、維新、国民民主各党が賛成し、立憲民主党と日本共産党は反対しました。

私たちは、このコロナ禍において、受診抑制による健康への影響の検証もなく、高齢者の必要な受診の機会を奪う法案を可決させた政府と与党、各党に厳しく抗議します。



2倍って、どういうこと!?

いま、75歳以上の後期高齢者の医療費の窓口負担は「原則1割」です。そのうち、年収200万以上の人は「2割」にするということです。その対象者は、全国で370万人23%ですが、神奈川県内では34万8千人30%、3割負担の人を含めると実に41%にのぼります。原則1割と言いながら、4割の人が2割以上の負担になります。

神奈川県民医連の調査では、1割負担から2割負担になったら「通院回数を減らす」「受診科の数を減らす」「薬の飲み方を自分で調整する」など、約3割の方が何らかの受診抑制を考えています。

このように、影響・被害は甚大です。

**75歳以上の医療費2倍化に
反対する神奈川県実行委員会**

＜連絡先＞神奈川県社会保障推進協議会
電話045-201-3900

＜事務局団体＞

- 神奈川県保険医協会
- 神奈川県民主医療機関連合会
- 全日本年金者組合神奈川県本部
- 神奈川県高齢期運動連絡会
- 神奈川県社会保障推進協議会

国会の審議で次々と問題点が出ています

◆給付費1050億円減少は、「受診控え」!?

政府は、2倍化の導入による「受診控え」によって給付費を1050億円も削減できるとしているにもかかわらず、受診控え・健康悪化につながることを認めていません。

◆法律に2割負担の対象が書かれていない!!

政府は、2割負担の対象は、単身世帯「年収200万円以上」（課税所得28万円以上）、夫婦世帯「年収320万円」（所得が多い方が同28万円以上）と言っていますが、法律には書かれていません。政令で定めるとしていることから、今後無制限に拡大できることとなります。

ええっー！それじゃあ、2倍どころか3倍になりかねないの!?

◆年収200万円以上の根拠が示せない!!

政府は、年収200万円以上の世帯の収支差を「年12万円の黒字」としていますが、サンプル数は123世帯に過ぎません。「負担能力はある」は極めて乱暴です。

◆現役世代の負担軽減は、わずか月30円!!

「現役世代の負担軽減」と言いますが、本人負担の軽減はわずか月平均30円（2022年度）程度です。



私たち「神奈川県実行委員会」は、県内で12万5千筆の署名を集めて、12人の地元国会議員に紹介議員になっていただき国会に署名を提出しました。

「2倍化」の実施は、来年秋以降とされています。私たちは、みなさんに実施させない取り組みを呼びかけます。秋にも行われる総選挙で、「2倍化」を実施しないことを公約するよう政党と候補者に要請します。

●署名提出の紹介議員一覧（敬称略）

<衆議院議員>

阿部 知子（神奈川12区）立民・国民
志位 和夫（比例南関東）日本共産党
中谷 一馬（比例南関東）立民・国民
笠 浩史（神奈川9区）無所属
後藤 祐一（比例南関東）立民・国民

青柳陽一郎（神奈川6区）立民・国民
篠原 豪（比例南関東）立民・国民
畑野 君枝（比例南関東）日本共産党
早稲田夕季（神奈川4区）立民・国民
山崎 誠（比例東北）立民・国民

<参議院議員>

小池 晃（比例）日本共産党

※神奈川5区候補者予定

真山 勇一（神奈川選挙区）立民・国民